



# 県立三好病院

平成 24 年 11 月・12 月号

今月の特集：足の腫れについて

6階病棟スタッフです！



## 新任医師紹介



消化器内科  
田中 宏典



脳神経外科  
岡崎 敏之



整形外科  
高井 通宏

# 足の腫れについて

循環器内科 重清正人

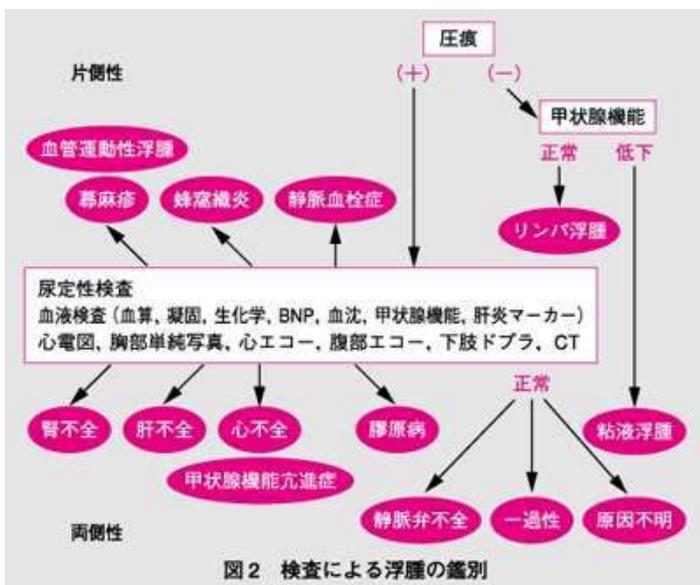
## 1. はじめに

もともと2本足歩行のヒトにとっては、下腿や足背は重力負荷によって末梢血行障害が最も現れやすいところです。健康な方でも日中の立ち仕事を長時間行うなどで夕方にくみが出現し、朝には引いている方もいます。また、健康な高齢者の方でも下腿や足背に浮腫が起きていることがあります。まずは原因の検索が必要です。なお、統計学的には50歳以上の下腿浮腫で最も一般的なのは静脈弁機能不全で、50歳未満では特発性浮腫といって原因不明なものであり、女性に多いです。

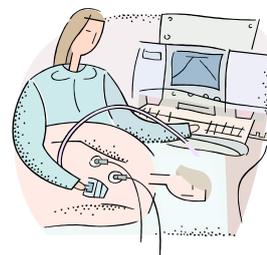


一概に腫れといっても様々あり、顔面や体幹を含む全身性の浮腫や局限した浮腫などがあり、息切れ症状、倦怠感、下痢など随伴症状を有したもので様々です。特に心不全（特に右心不全）が増悪した際の症状として上記のような症状や就寝時に横になると咳が出るなど様々です。

## 2. 検査



原因は様々であるため検査は多岐にわたりますが、一般的には体に負担のかかりにくい、採血、検尿、胸部レントゲン、エコー検査などから開始し、静脈の血栓の存在を疑う所見があれば、造影剤を使用したCT検査まで行うこともあります。



## 3. 分類

頻度が高くまた治療を要するという意味で大切な疾患では、心不全、腎不全、糖尿病性のネフローゼ症候群や甲状腺機能低下症、外傷性炎症などがあります。また、静脈機能不全や術後リンパ管性を含むいわゆる脈管のうっ滞などがあり、通常、動脈の狭窄では浮腫は生じにくい。なお、余談になりますが下肢の静脈瘤には塞栓症を併発することはまれと言われており頻度もそう高くないようです。さらに肝硬変などのアルブミンの喪失を含

む膠質浸透圧の低下、腎性を含む内分泌疾患、時にはクッシング症候群などの臓器障害や悪性腫瘍、上大静脈症候群、好酸球増多性血管浮腫などを鑑別し原因疾患の治療を優先します。薬剤性浮腫は他に原因がない場合に疑います。薬剤性で有名なものは、非ステロイド性抗炎症薬、副腎皮質ホルモン、エストロゲン製剤を含むホルモン剤、Ca拮抗薬、ACE阻害剤などの降圧剤、甘草、グリチルリチンなどの甘草製剤、PC系抗生剤、重炭酸NaなどのNa含有剤です。薬剤性を疑っても自己中断せずできるだけかかりつけの先生と相談することが大切です。また、詳細のはっきりしない漢方や自然食品などは一旦中止してみる必要があります。

(表) 四肢の浮腫の鑑別

機序	全身性	局所性
静水圧上昇	心不全(甲状腺機能亢進症、貧血、脚気も含む)、肺性心、環状性心臓炎、腎不全、薬物(NSAID、ステロイド、甘草、グリタジン)、ホルモン異常(Cushing症候群、月経不順、妊婦)	SVC(上大静脈)症候群、Budd-Chiari症候群やIVC(下大静脈)の狭窄(下半身)、深部静脈血栓症、静脈不全、麻痺筋、長時間坐位
膠質浸透圧低下	栄養不良、肝不全、ネフローゼ、蛋白漏出性腎臓病	
毛細血管透過性亢進	アナフィラキシー、好酸球増多症、脚気(心不全も関与)、特異性浮腫、血管拡張薬(Ca拮抗薬)、RSPOE、POEMS症候群	外傷・熱傷・凍傷、蜂窩織炎・筋紡錘炎、関節炎・滑膜炎、血管浮腫
リンパ流の障害		リンパ節転移・リンパ腫、リンパ管炎・リンパ節炎、リンパ節割壊、癌後・線維化
結水腫	甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症	

#### 4. 治療

原則的には原疾患の治療を優先しますが、原因がはっきりしなかった例でも過度の下腿浮腫が存在し、歩行障害の一端を担っている場合に患者さんの理解が得られるようなら利尿剤の少量投与を行うこともあります。脱水や腎不全を来すこともあり注意が必要です。また、基本的には安静時での下肢の挙上を指示することがあります。弾性包帯や弾性ストッキングは有効ですが、炎症がある場合は避けるべきです。足がむくむために下肢を締めつけることが良くないことと判断されている方もいらっしゃいますが、静脈が心臓まで血液を戻す機能の低下した状態を補助する作用を期待しているため、その場合はストッキング着用が有効です。

#### 5. 最後に

上記のとおり、足のむくみが気になる患者さんやその他の随伴症状を有する患者さんは相談してみてください。

#### ～県立病院事業基本理念～

県民に支えられた病院として県民医療の最後の砦となる

発行 徳島県立三好病院 広報委員会  
 〒778-8503 徳島県三好市池田町シマ 815-2  
 TEL 0883-72-1131 FAX 0883-72-6910  
 HP <http://www.tph.gr.jp/~miyoshi/>

### 臨時看護師募集

県立三好病院では臨時看護師、臨時准看護師を随時募集しています。詳しくは県立三好病院看護局(0883-72-1131)まで

御意見・御要望がございましたら、ホームページ、または院内御意見箱までお願いします。広報バックナンバーは、ホームページにて御覧になれます。

## シリーズ三好病院各部署紹介：今回は放射線技術科の紹介です

放射線技術科は、診療放射線技師9名で、主にX線を利用して検査をしています。X線は目で見ることや痛みを感じることはありませんが、人体にとって無害とは言えません。しかし、病気を  
知る上でX線検査が必要と判断され、放射線被ばくをうける被害より、病気がわかり治療に結び  
つく利益が大きい場合に、医師からの指示を受け検査を行っています。

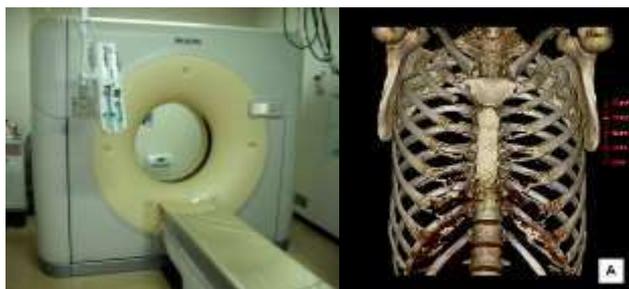
業務内容は、一般X線撮影、X線CT検査、MRI検査、乳房X線撮影（マンモグラフィー）、骨  
塩定量（骨密度）検査、X線透視造影検査、血管造影検査などがあり、夜間・休日も含め 24 時  
間体制で画像情報を提供できるように勤務体制を整え対応を行っています。

今回、病気の診断に欠かせない検査となっているCTとMRIの検査について少し紹介させてい  
たいただきます。

CT検査は、X線を使って身体の断面を撮影する検査  
です。短時間で広い範囲の撮影が可能で臓器の形状や  
内部の様子、周辺の組織との関係を調べることができ  
ます。また、骨や血管の3次元画像や任意の断面を作  
成することができます。造影剤を使用して、より詳しく  
検査することもあります。

MRI検査は、X線を使わずに非常に強い磁石と電磁  
波を使って、様々な角度から身体の中を撮影する検査  
です。CTよりも軟部組織の情報が詳しく分かり、また  
造影剤を使わないで血管を描出することができます。  
(MRA)しかし、MRI装置内部は狭いので閉所恐怖症  
の人、身体にペースメーカーなどの金属がある人は検  
査ができない場合があります。検査時間は平均30分  
～40分程度です。検査中は大きな音がするので、耳あ  
てをして検査を行っています。

当院で撮影された画像は画像サーバーに保存され、院内の電子カルテから参照することが可能に  
なっております。また、検査画像データをCD-Rに保存し他院に紹介できるシステムも導入し  
ています。患者さんには不快感のないように、丁寧かつ迅速に業務を行うように心がけています。  
今後もより良い画像情報を提供できるように努力していきたいと考えています。



CT装置

胸部3次元画像



MRI装置

頭部MRA画像



一般X線撮影装置



X線血管撮影装置



骨密度測定装置



X線透視撮影装置



乳房X線撮影装置



ポータブル撮影装置